

## 昭和60年度事業の概要

本年度実施した各事業の概要は以下のとおりである。

### 浅海増養殖試験（継続）

#### 1 ヒラメ標識放流調査

田辺湾のヒラメ資源生態把握のため、'85年9月4日に平均全長13.6cmの人工種苗1,890尾を南部川河口に、12月17日は同じく平均全長29.1cmのもの636尾を田辺湾口（沖の島西約1マイル）に標識放流し、調査を行った。また、このほか7月4日に平均全長6.0cmの人工種苗7,500尾を無標識で南部川河口に放流した。

#### 2 サザエ標識放流調査

'83・'84年に和歌山市加太地先およびすさみ町里野地先に放流したサザエの追跡調査を引続き実施するとともに、新たに田辺市元町目良地先に、'85年7月26日無標識で平均殻高4.9mmのもの10,000個、同年8月2日に白色ビーズ玉で標識した平均殻高3.18mmのもの1,000個を放流し調査を行った。

#### 3 アワビ類放流調査

放流効果把握を目的に、'80年11月古座町下田原・津荷地先に放流したクロアワビについて追跡調査を実施してきたが、'83年8月と'85年8月に解禁した放流場所の漁獲物調査および潜水調査により再捕個数を推定した。その結果、放流数の7.2～8.5%が漁獲されており、'84年のギムノディニウム赤潮による斃死や食害等を考えると、管理の仕方によっては10%以上の漁獲が可能と推定した。

#### 4 魚病対策指導

本年度の病魚持込件数はエビ類9件を含む98件あり、これらについて魚病診断を行うとともに病魚への投与薬剤の種類、量や飼育管理方法等の対策指導を行った。

#### 5 ブリ類結節症ワクチン開発試験

海産魚ワクチン開発研究検討会参加試験として、試作ワクチンのモジャコに対する安全性試験と試験筏における自然感染による有効性試験を実施した。

#### 6 赤潮調査

日高郡～西牟婁郡日置川町間で発生した赤潮の持込試料について、種類の同定および計数を行い、必要に応じて現場調査を実施した。

### 種苗生産技術開発研究（継続）

#### 1 ヒラメ種苗生産試験

体色異常個体出現原因究明試験を行ったが実験中に腸管白濁症が発生し、生残率が非常に悪くなった。生残魚については、紫外線照射の影響は不明であった。

#### 2 ジロギス種苗生産試験

電照による早期採卵を試みるため、'85年4月2日から飼育水槽上部に蛍光灯を点灯し、6月21日まで徐々に点灯時間を長くしたところ、5月27日に産卵が確認された。

## 昭和60年度事業概要

### 3 クマエビ・フトミゾエビ種苗生産

昨年同様田辺漁業協同組合エビ類研究会と共同で実施した。本年度は初期餌料として、一部のエビにテトラセルミスを経飼し、さらに採卵から放流まで26㎡水槽で一貫飼育し作業量の軽減を図った。また放流効果把握の基礎資料とするため、小型底曳漁船（エビ漕ぎ網）の漁獲物調査を行った。

### 4 藻類種苗生産

本年度はアラメ10枠、カジメ35枠、ヒロメ65枠の種苗生産を実施し、アラメ・カジメ種苗は海域基幹事業および海中造林技術開発研究に供し、ヒロメ種苗は田辺、湊浦、白浜、堅田、すさみ、太地、浦神、那智、三輪崎漁業協同組合、県栽培漁業センターおよび有田県事務所産業課に養殖試験用として配付した。

### 5 テトラセルミス培養シオミズツボワムシのヒラメ稚仔魚に対する餌料価値の検討Ⅱ

前年度に引続き、テトラセルミスで培養したシオミズツボワムシをヒラメの稚仔魚に給餌し、クロレラや酵母で培養したワムシ給餌区と、へい死率、成長、白化個体出現率等を比較検討した。

#### 海中造林技術開発研究事業（共同・継続）

太地地先に投入した試験藻礁にアラメ・カジメ幼芽を展開し、生残、生長、成熟状況等を調査した。

#### イセエビ大規模増殖場造成事業効果調査（継続）

日高郡南部町堺地先に造成されたイセエビ増殖場の効果を検討するため、試験操業10回および漁業者による共同操業9回の漁獲物について生物測定を行った。

#### 組織的調査研究活動推進事業（国補・新規）

西牟婁郡日置川町における漁業実態を把握するとともに、地先漁場の活用策を検討した。

#### マダイ配合飼料実用化試験（継続）

マダイ養殖における自家汚染ならびに労働力の軽減を目的として試験を行った。北洋ミール主体のペレット区が3年間の飼育で平均体重1,100gとなり試験を終了したが、'83年からの沿岸ミールペレット区・同モイストペレット区・生餌区、'84年からのオレゴンペレット区・低コストペレット区を継続飼育した。

#### サザエの成熟・産卵に関する研究（国補・継続）

和歌山市加太地先の天然サザエと、当场水槽飼育サザエの成熟時期を把握するとともに、採卵方法を検討した。この結果、加太では6月中旬～7月中旬、水槽飼育では5月中旬から11月まで成熟状態にあることがわかった。また一夜止水飼育ののち流水状態にする方法により安定的に採卵が可能であった。

#### 主要養殖魚類の絶食試験（新規）

赤潮発生時の被害防止対策としてブリ1年魚を用いて絶食試験を行い、絶食の限界期間と給餌再開後の回復状況等を調査した。当初約15.00あった肥満度が1週間の絶食でおよそ14.00となり、3～4週間で13.00前後になった。9週間では11.40となり、以後餓死する個体が出始めた。

#### 回遊性魚類共同放流実験調査事業（国補・継続）

白浜・加太漁業協同組合が受託実施したマダイ仔魚の中間育成について、飼育方法・魚病対策の

指導を行った。また腹鰭抜去標識法について、再生状況、生残・成長に及ぼす影響を調査した。

**海域開発基幹事業（国補・継続）**

熊野灘海域での藻場造成用のカジメ母藻を大量に生産するため、浦神湾に設置したロープ筏でカジメ幼芽を母藻に生育させることを試みた。また、本事業で設置された海中施設に、延縄方式でカジメ母藻を展開し藻場造成を行った。

**魚病等実態把握指導等事業（国補・継続）**

水産庁の魚病対策事業に基づき、魚類防疫対策事業として魚病発生予察・流行伝播防止を目的に、防疫対策定期パトロール、重大魚病発生時の緊急対策、種苗の魚病検査、魚病発生防止対策を実施し、また水産用医薬品指導事業としてブリ筋肉中の医薬品残留検査を実施した。

**魚病指導総合センター設置事業（国補・新規）**

水産庁の魚病対策事業のうち、魚病関連機械器具等整備事業により12,804千円の国庫補助を受けて、内水面漁業センター分5品目を含む計62品目を購入・整備し、当場内に魚病指導総合センターを併設した。